

# 2026年3月期第1四半期決算補足説明資料

2025年8月7日

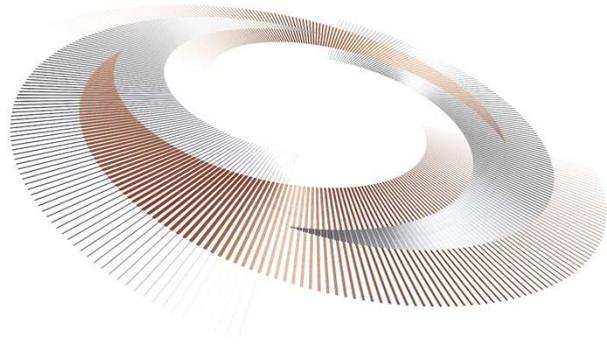


CEOの田中でございます。

本日は、弊社決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、2026年3月期 第1四半期決算概要についてご説明申し上げます。

まずは、決算補足説明資料の4ページ、エグゼクティブサマリをご覧くださいと存じます。



## 人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する

限りある資源を大切に使うために、使用済みの製品を資源として再生させる。

そこに新たな価値を付加し、再び社会に送り出す。

その循環のプラットフォームを構築し、自らプレイヤーとして価値を創出する。

そして未来に向けて、持続可能な社会の実現に力強く貢献し、循環の輪を広げていく。

## 目次

---

1.	エグゼクティブサマリ	P.4
2.	社長就任後の100日	P.5
3.	2026年3月期第1四半期実績	P.6
4.	連結財政状態	P.9
5.	参考情報	P.10

## エグゼクティブサマリ

### 第1四半期 景況感 今後の見通し

- **自動車関連**：欧州・東南アジアで販売台数が前年同期比で減少する一方、米国・中国・日本では増加。第2四半期以降も同様の傾向継続の見込み
- **半導体関連**：生成AI等のデータセンター向け需要は好調。第2四半期以降も同様の傾向継続の見込み
- **為替相場**：平均為替レートは前年同期比で円高ドル安で推移
- **金属価格**：金、銀は上昇傾向。銅は前四半期比で上昇傾向の一方、前年同期比で下落

### 前年同期比で減収減益

**売上高** 4,314億円 前年同期比△822億円

- 為替の円高、定期炉修後の生産立ち上げの遅れなどにより減収

**営業利益** △26億円 前年同期比△154億円

- 為替差（原材料の在庫評価影響）などにより減益

**経常利益** △1億円 前年同期比△187億円

- 営業利益の減少、前年度末比円高による外貨建債権債務の為替差損計上などにより減益

**当期純利益** △40億円 前年同期比△250億円

- 前年同期に計上したPT. Smelting持分法化に伴う持分変動利益の剥落、希望退職実施に伴う特別退職金の計上などにより減益

### 通期業績 予想

**通期業績予想、配当予想は、前回（5月14日）公表値から変更なし。**

- 期初想定に対し為替が円安で推移している一方で、為替動向が不透明であること、抜本的構造改革の推進による業績影響が精査中であることにより据え置き

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

4

最初に景況感についてご説明いたします。

自動車関連市場は、欧州および東南アジアにおいて販売台数は前年同期比で減少いたしました。米国・中国・日本では増加いたしました。第2四半期以降も同様の傾向が続くものと予想しております。半導体関連市場は、生成AIなどデータセンター向け需要が好調であり、第2四半期以降も引き続き堅調に推移すると見込んでおります。

為替相場は当社前提からは円安となっておりますが、前年同期比では円高傾向にございます。

金属価格は、金・銀につきましては上昇傾向にあり、銅価格は米国関税措置の動向の影響を受け、足許では多少の変動が見られますものの、前四半期からは上昇傾向にございます。しかしながら、前年同期比では下落しております。

次に第1四半期の実績でございます。

2026年3月期第1四半期実績は、前年同期比で減収、減益となりました。

売上高は、前年同期比で為替が円高となったこと、金属事業における定期炉修後の生産立ち上げの遅れなどにより減収となりました。

営業利益は、金属事業における為替差による原材料の在庫評価影響などにより減益となりました。

経常利益は、営業利益の減少に加え、外貨建債権債務による為替差損の計上などにより減益となりました。

純利益は、前年同期に計上したPT. Smelting社の持分法化に伴う持分変動利益の剥落に加え、第1四半期に実施いたしました希望退職に伴う特別退職金の計上などにより減益となりました。

2026年3月期の通期業績及び配当予想につきまして、期初想定に対し為替が円安で推移しておりますが、米国関税措置などにより為替動向が不透明であることや、抜本的構造改革の推進に伴う業績影響の精査を進めている状況であるため、予想を据え置きいたします。

続いて、5ページをご覧ください。

## 社長就任後の100日

抜本的構造改革の推進に向け、優先度の高い課題への対応を進める一方で、社内外との対話を通じて、改革の実効性を高める体制を構築

### ■ 抜本的構造改革の立案と実行

- ・ 全社課題を見える化し、構造改革の必要性を定量的に測定
- ・ 改革の核心を担う経営幹部層へのインプットと巻き込み

#### 各事業の収益性改善

- ・ 低TC/RCへの対応として、リサイクル原料比率の引き上げを見据えた小名浜製錬所の銅精鉱処理能力縮小を検討開始<sup>\*1</sup>
- ・ 製造効率の向上、生産リードタイムの短縮などによる銅加工事業のバリューチェーンの強化に向け、堺工場・三宝製作所の組織統合の準備開始（2026年4月1日統合予定）<sup>\*2</sup>

#### コーポレート部門の改革

- ・ 間接部門の筋肉質化に向け、希望退職の実施と機能軸の組織集約を推進

### ■ 社内外ステークホルダーとの対話

- ・ 「現場力向上」と改革の実現に向けた課題と対策について、事業拠点・中堅管理職層とのディスカッションを継続
- ・ 資本市場との対話を通じ、企業価値向上に向けた経営課題の再精査と優先順位の明確化

<sup>\*1</sup> 2025年8月4日公表 プレスリリース「小名浜製錬社における銅精鉱処理の縮小計画について」

<sup>\*2</sup> 2025年8月4日公表 プレスリリース「銅加工事業における西日本生産拠点の組織統合について」



こちらでは、私が社長に就任して以降の100日間における抜本的構造改革の取り組みについてご報告申し上げます。

まずは、全社課題の見える化を進め、構造改革の必要性を定量的に把握しております。また、改革の核心を担う経営幹部層へのインプットと巻き込みも進めているところでございます。

事業ごとの収益性改善に関しましては、低TC/RCへの対応として、リサイクル原料比率の引き上げを見据えた小名浜製錬所の銅精鉱処理能力縮小を検討開始いたしました。

また、銅加工事業の堺工場、三宝製作所は、いずれも同じ堺市内に所在し、これまでも伸銅品の製造において密接に連携しております。今後もその効果をより発揮するために組織の統合を進め、製造効率の向上や生産リードタイムの短縮を図り、銅加工事業のバリューチェーンの強化、及び顧客対応力の向上に努めてまいります。

コーポレート部門の改革におきましては、間接部門の筋肉質化に向け、希望退職を実施いたしました。加えて、コーポレート部門の機能軸であります、経理財務や法務、人事関係の組織集約も推進しております。

社内外のステークホルダーとの対話では、現場力の向上と改革実現に向けた課題及び対策について、事業拠点や中間管理職層とのディスカッションを継続しております。加えて、資本市場との対話を通じ、企業価値向上に向けた経営課題の再精査と優先順位の明確化も進めております。

続いて次ページ以降の第一四半期実績の詳細は、CFOの平野よりご説明申し上げます。

## 2026年3月期第1四半期実績（連結損益計算書）

前年同期に発生した為替差による原材料在庫評価益の反動、外貨建債権債務の為替差損計上などにより減収減益

（単位：億円）

		25年3月期 1Q実績	26年3月期 1Q実績	前年 同期比	%	26年3月期 通期予想
売上高		5,137	4,314	△822	△16.0%	18,700
営業利益		128	△26	△154	-	100
受取配当金		10	24	+13	+133.1%	208
持分法損益		45	42	△3	△6.8%	213
経常利益		186	△1	△187	-	330
特別損益		89	△13	△103	-	△50
親会社株主に帰属する 当期純利益		209	△40	△250	-	200
ドル為替	(円/\$)	156	145	△11	△7.2%	140
ユーロ為替	(円/€)	168	164	△4	△2.4%	160
銅価格	(¢/lb)	442	432	△11	△2.4%	425
金価格	(\$/oz)	2,338	3,280	+943	+40.3%	2,700
パラジウム価格	(\$/oz)	972	990	+18	+1.9%	1,000

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

6

平野でございます。よろしくお願い致します。

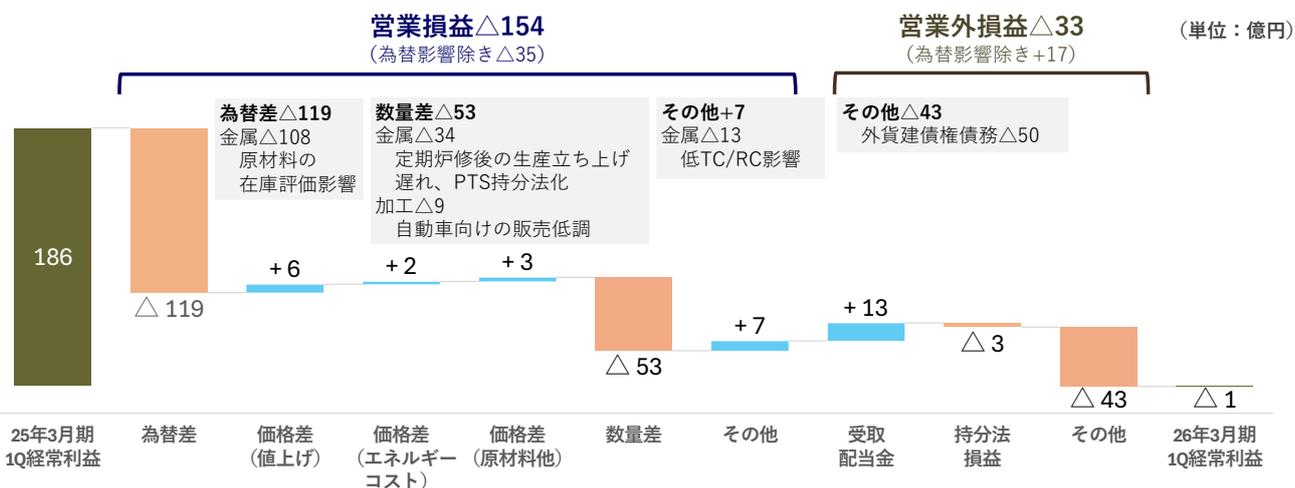
早速ですが、2026年3月期第1四半期実績についてご説明申し上げます。

まず、冒頭の田中からのご説明のとおり、当第1四半期実績は、昨年度第1四半期において為替の円安推移を背景に金属事業において計上した原材料在庫評価益の剥落と、外貨建債権債務の為替差損計上等の影響により、前年同期比で減収、減益となりました。

この減益の背景につきましては、次ページの滝グラフで詳細をご説明いたしますので、資料7ページ目をご覧ください。

## 2026年3月期第1四半期実績（利益増減要因内訳）

- 営業利益△26億円**（前年同期比△154億円、為替影響を除いた前年同期比△35億円）  
 主な要因 [+] 価格差（値上げ 他）  
 [△] 為替差（原材料の在庫評価影響 他）  
 数量差（定期炉修後の生産立ち上げの遅れ、PT. Smelting持分法化、自動車向けの販売低調 他）
- 経常利益△1億円**（前年同期比△187億円、為替影響を除いた前年同期比△18億円）  
 主な要因 [+] 受取配当金増加（Escondida銅鉱山）  
 [△] その他（前年度末比円高による外貨建債権債務の為替差損計上 他）



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

7

こちら、当第1四半期の経常利益を前年同期との比較で増減要因を整理したものです。

営業利益は26億円の赤字。前年同期比154億円の減益となりましたが、まず、増益要因として、主に値上げ等があります。一方で、減益要因として最も大きかったのが、「為替差」で、119億円、このうち金属事業において、前四半期比で円高が進んだことに伴う在庫評価影響が前年同期比で108億円と大半を占めています。

また「数量差」としては、金属事業における定期炉修後の生産立ち上げの遅れや、PT. Smelting社の昨年6月末での持分法適用への移行、加工事業における自動車向け超硬工具の販売低調などにより53億円の減益要因となりました。

また、経常利益は1億円の赤字。前年同期比では187億円の減益となりました。これは営業利益の減少に加え、営業外損益において、エスコンディーダ銅鉱山からの受取配当金の増加が増益要因となった一方で、前年度末比で6月末のドル円の為替レートが円高に振れたことから、外貨建債権債務について為替差損を計上したことなどが減益要因となっております。

以上のとおり、特にこの第1四半期の業績には、短期間での急激な円高の影響が大きく表れています。ただ、為替の影響だけでは実態が見えにくくなると思われるので、ここからは、「為替影響を除いたベース」での前年同期比もご説明いたします。

まず、為替影響を除いた営業利益は、前年同期比で35億円の減益です。

これは主に、金属事業において一時的・特殊な要因による減益があったためであり、第2四半期以降において取返しを図る予定です。また、加工事業については、若干の数量減はあったものの、値上げやコスト削減努力によって相殺できております。

一方、営業外損益については、為替影響を除けば前年同期比で17億円の増益となりました。こちらは、先のご説明のとおり、エスコンディーダ銅鉱山からの配当増が要因です。

すなわち、金属事業における特殊要因を除けば、全体としては前年並み、あるいはやや上振れと評価できる業況であったと考えております。

続きまして、8ページをご覧ください。

## 2026年3月期第1四半期 セグメント別利益概況

- 金属事業** 原材料の在庫評価影響、定期炉修後の生産立ち上げの遅れなどにより減益
  - 銅加工事業** 銅価格が前年同期比で下落したことなどにより減益  
 (25年3月期1Q：442¢/lb⇒26年3月期1Q：432¢/lb)
  - 加工事業** 自動車向けの販売低調などにより減益
- (単位：億円)

		25年3月期 1Q実績	26年3月期 1Q実績	前年 同期比	要因						
					為替差	価格差	数量差	受取 配当金	持分法 損益	その他	
金属	営業利益	88	△68	△156	△109	+14	△34			△27	
	経常利益	121	△54	△176						+13	+5
高機能	銅加工	営業利益	17	△2	△20	△1	△7	△2			△8
		経常利益	8	△9	△17						△0
	電子材料	営業利益	7	5	△2	△0	△0	△0			△0
		経常利益	14	9	△5						+0
加工	営業利益	29	30	+1	△7	+5	△9			+12	
	経常利益	34	23	△11						+0	+0
再生可能 エネルギー	営業利益	9	3	△6	-	△0	△5			△0	
	経常利益	12	1	△11						+0	△2
その他	営業利益	6	5	△0	△0	-	△1			+0	
	経常利益	40	38	△1						+0	△6
合計 連結調整額等を含む	営業利益	128	△26	△154	△119	+11	△53			+7	
	経常利益	186	△1	△187						+13	△3

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

8

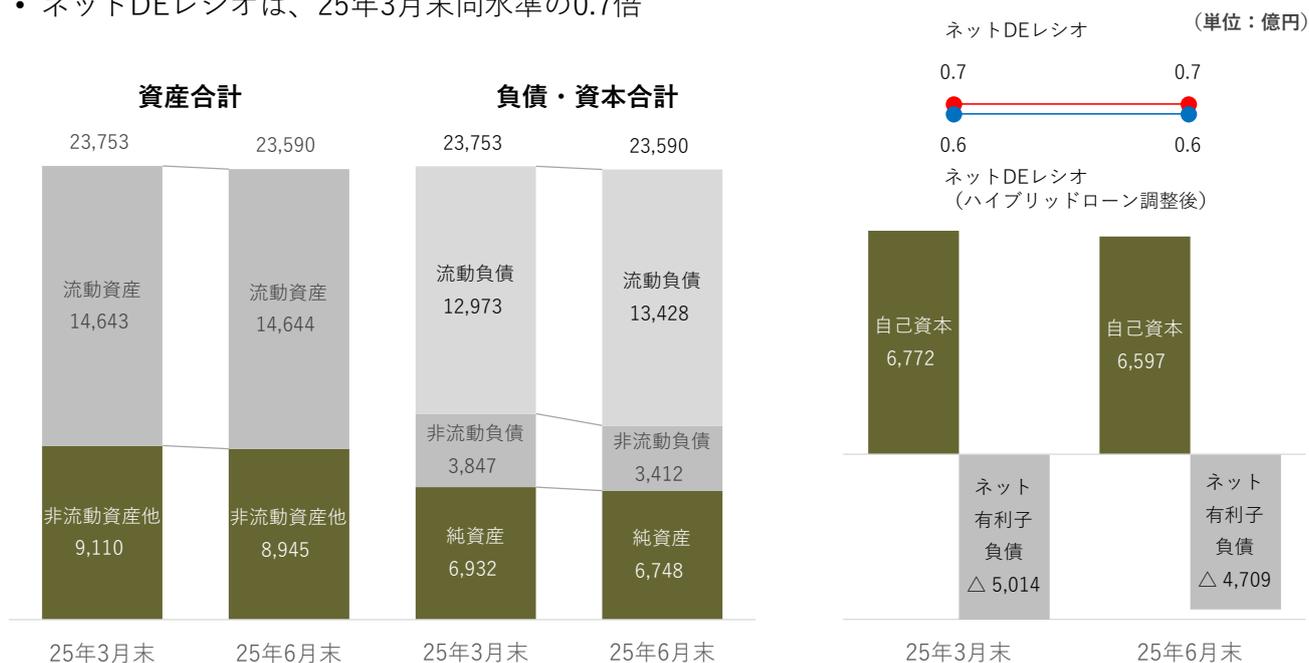
こちらは、当第1四半期の実績をセグメント別に前年同期実績と対比したものです。

- ・金属事業では、「為替差」として原材料の在庫評価影響が、「数量差」として定期炉修後の生産立ち上げ遅れ等があったことで営業利益が減少しました。
- ・銅加工事業では、「価格差」に表れておりますが、銅価格が前年同期比で下落したこと等を主因として営業利益が減少しました。
- ・加工事業は、自動車向けの販売低調により「数量差」において減益となっておりますが、これを「価格差」に表れている値上げ、また「その他」に含まれるコストダウン等により打ち返すことで、営業利益は増益となりました。一方の経常利益は、外貨建債権債務による為替差損計上等により、減少しました。

続きまして、9ページをご覧ください。

## 連結財政状態

- 総資産は流動資産の「その他」に含まれる保管金地金が減少したことなどにより減少
- ネットDEレシオは、25年3月末同水準の0.7倍



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

9

9ページは、連結財政状態です。2025年6月末時点の連結バランスシートにおいて、資産合計は2兆3,590億円であり、2025年3月末比で総資産が若干の減少となっております。財務健全性を示す指標の一つであるネットDEレシオは、自己資本とネット有利子負債が共に減少した結果、2025年6月末時点で2025年3月末と同水準の0.7倍となっております。

私からのご説明は以上でございます。

以上

## 参考情報

---

## セグメント概況（金属事業・加工事業）

### 金属事業

原材料の在庫評価影響、定期炉修後の生産立ち上げの遅れ、TC/RCの低下などにより、経常利益は△54億円（前年同期比△176億円）

在庫評価影響除きの1Q実績は営業利益△23億円、経常利益△4億円

項目	25年3月期 1Q実績	26年3月期 1Q実績	増減	26年3月期 通期予想
売上高	3,900	2,887	△1,012	12,718
営業利益	88	△68	△156	△58
経常利益	121	△54	△176	168

25年3月期1Q経常利益	121
為替差	△109
価格差	+14
数量差	△34
受取配当金	+13
持分法損益	+5
その他	△66
26年3月期1Q経常利益	△54

### 加工事業

H.C. Starck社の連結子会社化により増収。値上げによる増益の一方、自動車向けの販売低調などにより経常利益は23億円（前年同期比△11億円）

（単位：億円）

項目	25年3月期 1Q実績	26年3月期 1Q実績	増減	26年3月期 通期予想
売上高	381	529	+148	2,145
営業利益	29	30	+1	97
経常利益	34	23	△11	83

25年3月期1Q経常利益	34
為替差	△7
価格差	+5
数量差	△9
受取配当金	+0
持分法損益	+0
その他	△0
26年3月期1Q経常利益	23

## セグメント概況（銅加工事業・電子材料事業）

### 銅加工事業

銅価格が前年同期比で下落したことなどにより、  
 経常利益は△9億円（前年同期比△17億円）  
 在庫評価影響除きの1Q実績は営業利益3億円、  
 経常利益△3億円

項目	25年3月期 1Q実績	26年3月期 1Q実績	増減	26年3月期 通期予想
売上高	1,130	1,103	△27	4,702
営業利益	17	△2	△20	73
経常利益	8	△9	△17	26
<b>25年3月期1Q経常利益</b>				<b>8</b>
為替差				△1
価格差				△7
数量差				△2
受取配当金				△0
持分法損益				-
その他				△5
<b>26年3月期1Q経常利益</b>				<b>△9</b>

### 電子材料事業

精密実装材料の販売が好調だった一方、シール  
 製品の販売減少などにより経常利益は9億円  
 （前年同期比△5億円）

（単位：億円）

項目	25年3月期 1Q実績	26年3月期 1Q実績	増減	26年3月期 通期予想
売上高	198	216	+18	882
営業利益	7	5	△2	40
経常利益	14	9	△5	53
<b>25年3月期1Q経常利益</b>				<b>14</b>
為替差				△0
価格差				△0
数量差				△0
受取配当金				+0
持分法損益				△0
その他				△3
<b>26年3月期1Q経常利益</b>				<b>9</b>

# UBE三菱セメント社概況

## ■UBE三菱セメント社連結損益計算書 (単位：億円)

項目		25年3月期 1Q実績	26年3月期 1Q実績
売上高	国内事業	905	857
	海外事業	527	450
	計	1,433	1,307
営業利益	国内事業	24	21
	海外事業	113	88
	計	138	109
経常利益		151	120
親会社株主に帰属する純利益		77	64

## ■当社持分法投資損益

持分法投資損益	36	29
---------	----	----

## ■UBE三菱セメント社諸元

項目		25年3月期 1Q実績	26年3月期 1Q実績
セメント (国内総需要)	万 t	816	764
セメント (国内)販売数量	万 t	192	187
セメント (米国)販売数量	万st	42	42
生コン (米国)販売数量	万cy	182	164
一般炭価格 (参考指標)	\$/ t	136	100
ドル為替	円/\$	155	145

※上記一般炭価格は参考指標であり、実際の調達価格とは異なる。

(参考) 25年6月末 連結貸借対照表

(単位：億円)

総資産	7,927	有利子負債	1,937	自己資本	3,441
自己資本比率	43.4%	ネット D/Eレシオ	0.3倍		

- 国内事業：セメント値上げや熱エネルギー価格低下の効果はあるものの、発電所における2年に1度の定修の影響及び設備トラブルに起因する売電数量減少等により、国内事業全体では減収減益となった。
- 海外事業：米国事業は、域内需要が弱含みで推移したことに伴う生コン販売数量減や定修費用の期ズレ負担等の影響により減収減益となった。一方、豪州石炭事業は販売数量・価格ともに前年比横ばいで推移し、前年並みの損益となった。

## 四半期業績の推移 セグメント別

(単位：億円)

項目	25年3月期								26年3月期
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	
金属	売上高	3,900	3,424	7,324	3,625	3,385	7,011	14,336	2,887
	営業利益	88	136	224	△1	8	7	231	△68
	経常利益	121	58	180	237	△6	231	411	△54
高機能製品*	売上高	1,323	1,288	2,612	1,243	1,248	2,491	5,103	1,301
	営業利益	23	△33	△10	35	31	66	56	1
	経常利益	20	△43	△23	31	23	54	31	△1
銅加工	売上高	1,130	1,098	2,229	1,049	1,057	2,107	4,336	1,103
	営業利益	17	△32	△14	19	25	45	30	△2
	経常利益	8	△42	△34	10	13	23	△10	△9
電子材料	売上高	198	189	388	196	194	390	779	216
	営業利益	7	1	9	15	8	23	32	5
	経常利益	14	1	16	20	12	33	49	9
加工	売上高	381	364	746	363	378	741	1,488	529
	営業利益	29	38	68	0	20	20	88	30
	経常利益	34	28	63	3	18	21	85	23
再生可能エネルギー	売上高	23	21	45	18	19	38	83	13
	営業利益	9	7	16	3	3	6	23	3
	経常利益	12	5	18	4	3	7	26	1
その他	売上高	350	376	727	406	443	849	1,576	344
	営業利益	6	15	21	17	15	32	54	5
	経常利益	40	49	89	58	37	95	185	38
調整額	売上高	△842	△717	△1,559	△716	△691	△1,407	△2,967	△764
	営業利益	△28	△16	△45	△8	△30	△38	△83	0
	経常利益	△43	△35	△79	△16	△41	△58	△137	△8
合計	売上高	5,137	4,758	9,895	4,941	4,783	9,724	19,620	4,314
	営業利益	128	147	275	47	48	95	371	△26
	経常利益	186	62	249	319	33	353	602	△1

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved. \* 高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを含めて記載 14

# 諸元

## 主要製品の生産・販売動向

項目	25年3月期							26年3月期	
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	
電気銅	生産量 千 t	112	102	214	98	85	183	398	81
	販売量 千 t	102	93	195	88	79	167	362	77
金	生産量 t	9	9	19	10	10	19	38	4
	販売量 t	9	9	19	10	10	19	38	4
銀	生産量 t	81	75	156	69	75	144	301	49
	販売量 t	82	74	156	69	76	145	302	47
伸銅品	販売量 千 t	29	29	58	31	29	60	117	31

## 鉱山配当額の推移

項目	25年3月期							26年3月期	
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	
Los Pelambres	配当額 億円	-	-	-	137	22	160	160	-
Escondida	配当額 億円	8	-	8	27	-	27	36	22
鉱山配当額計	配当額 億円	8	-	8	164	22	187	196	22

## 金属価格・為替の推移

項目	25年3月期							26年3月期	
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	
ドル為替レート	円/\$	156	149	153	152	153	153	153	145
ユーロ為替レート	円/€	168	164	166	163	161	162	163	164
銅価格(LME)	¢/lb	442	417	430	416	424	420	425	432
金価格	\$/oz	2,338	2,476	2,407	2,662	2,862	2,762	2,585	3,280
パラジウム価格	\$/oz	972	970	971	1,011	961	986	979	990

# 持分法投資損益内訳

(単位：億円)

会社名	当社持分	25年3月期							26年3月期
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q
Copper Mountain Mine(BC)Ltd. *	25%	0	△6	△6	0	△3	△2	△8	△3
Mantoverde S.A.	30%	△2	△4	△6	6	3	10	3	3
PT.Smelting	34%	△0	5	4	2	3	6	11	3
関西リサイクルシステムズ	41.4%	1	1	3	1	1	2	5	1
フジクラダイヤケーブル	22%	3	0	4	3	3	7	11	3
湯沢地熱	30%	3	△0	3	2	1	4	7	1
UBE三菱セメント	50%	36	36	72	43	25	68	140	29
その他		2	△0	1	1	1	2	4	2
合計		45	31	76	63	36	99	175	42

\* 2025年4月30日付にて権益売却済み

## お問合せ先

三菱マテリアル株式会社  
IR室

〒100-8117 東京都千代田区丸の内3-2-3 丸の内二重橋ビル

[ml-mmccir@mmc.co.jp](mailto:ml-mmccir@mmc.co.jp)

<https://www.mmc.co.jp/corporate/ja/index.html>

<お知らせ>

最新の適時開示など、当社IRに関する情報のメール配信サービスをご希望の方は、  
以下のURLからご登録ください

<https://www.mmc.co.jp/corporate/ja/ir/irmail.html>

<免責事項>

本資料における見通しは、本資料発表日時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。  
実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、本資料業績予想と大きく異なる可能性があります。  
本資料に掲載されている内容・写真・図表などの無断転載を禁止します。